

## 行動活写観察法による幼児の生活場の構造化に関する研究

八重島 建二\*

清 光 文\*\*

梅津八三(1974, '76)は、重度・重複障害者の教育の在り方について論究する中で、「教育的な係わり合い」を「他生体と、生命活動の革生をたがいに輔け合う関係」(1976, p. 41)と定義し、「教育の場は、Aは教え子であるとともに教師でもあり、Bは教師であるとともに教え子である。(相互主客二役性\*\*\*)」(1974, p. 4)と説明している。更に、「……“教育の効果”ということの問題にするのではなく、“障害者教育の効果”を問題にするのではなく、人類一般における教育効果ということも……」(1976, p. 2)と教育的な係わり合いの成果の原理的視座を論じている。即ち、梅津理論における教育的な係わり合いは、重複障害児の教育にのみ通じるものでは決してなく、まさに中島昭美(1976)の敷衍する「すべての教育の礎」(p. 4)であり、あらゆる子供の教育に通じるものであろう。

ところで、普通、保育の場と呼ぶ場合は、保育者が幼児を保育している所という静的な意味合いであろうが、梅津理論の視座から見れば、互いに教育的な係わり合いを持つ相互作用関係の場であり、動的な関係構造の場であろう。

ここに我々は、保育の場とは、幼児も保育者も同時相即的にいきいきと生活している場として捕えられねばならないと考え、Lewin, K. (1936)の「生活空間」(life space, p. 216)という概念を導入し、この用語の持つ物理的イメージの誤解を薄めるために「場」(field, *ibid.*)の概念をも導入し、前述の意味を込めて「生活場」(life field)という概念を造った。本研究では、幼児の生活場の構造化の工夫を、主としてLewinの最もLewinらしい体系に準拠しながら試みようとするものである。

さて、我々は、幼児の生活場に関する素材を手に入れる技法として、観察法を用いるものである。しかもその

観察法とは、自然的観察法(naturalistic observation\*)のことであり、直接的観察法(direct observation)のことである。

Endler, N. S., Boulter, L. R., & Osser, H. (1976)は、発達心理学の研究方法は、1950年代以降、実験的方法論の増加に見られるように、自然的観察様式から実験的観察様式へと発展しているように見えるが、一方、この両者間には相互依存性があり、自然的観察法は、過去においては、そのテーマが実験的研究の手に負えないような場合に押し進められたのであるが、今日においては「行動を十分に理解するために必要な方法論」(p. 36)として論じられていると述べている。具体的にMedinnus, G. R. (1976)は、Barker, R. G., Dembo, T., & Lewin (1941)の実験室事態の幼児の遊戯活動に関する研究結果が、子供たちの日々の活動の観察結果と異なることを例に挙げ、又心理学的生態学者が、実験室事態の人為的人工的特質のために、実験室の研究から得られた情報が自然な環境の中で観察することによって得られた情報とは全く異なるであろうと論じて、家庭、学校、遊び場、街角のような自然な場の中で観察することの重要性を警告してきたことを挙げている。

この自然的観察法の手続としては、既述の直接的観察法が用いられるが、これはWright, H. F. (1960)が「直接的観察は2つの点で直接的である。観察者と目標現象の間に、(1) 計画的な準備が何もなく、(2) それと感じられるほどの時間も介在しない、即ち記録が観察にぴったりついて行く。」(p. 71)と述べているように、機器によらず観察者が自らの眼で観察記録するという方法である。

Tinbergen, E. A. & Tinbergen, N. (1972, '74)は、行動学\*\*の方法(ethological approach)を用いて自閉症

\* 名古屋大学

\*\* 兵庫県立幼児教育センター

\*\*\* 梅津の相互主客二役性という用語は、文献学的理解を越えた臨床的理解、即ち臨床的追体験によってしか真に理解できない世界であると考え。このことは、後述する。(p. 9参照)

\* 続有恒・葺阪良二編 1974 心理学研究法第10巻 観察 東京大学出版会は、natural observation (p. 16)とし、白井常 et al (1975)は、Hebb, D. O. (1972)のTextbook of psychologyのnaturalistic observationを「博物誌的観察」と訳出している。

\*\* この訳語は、日高敏隆(1976)の「エソロジーはどのような学問か」に拠った。

児の研究を進める中で、直接的観察 (straightforward observation) という基本的・科学的な方法、即ち「動物の行動を『じっと見つめて不思議に思う』(watching and wondering\*) という昔からの方法」(1974, p. 20) が、単に動物のみばかりでなく、自閉症児の理解にも、更には「正常な」行動や「異常な」行動を含めた人間の行動の理解にも役立つ研究方法であると論じている。更に「赤ん坊の心的生活は、フェアブルが昆虫をその自然な環境の中に捜して行って突然見つけては、その妨げにならないように隠れて観察したのと同じように観察しなければならない。」という Montessori, M. (1936, p. 45) を「人間行動学……の偉大な先駆者」(1972, p. 52) と評価し、「子供は、行動学者が動物を観察するのと同じ方法で観察しなければならない。」(ibid.) と強調している。

我々は、この Tinbergen の “watching and wondering” という観察方法を用いるものであるが、この「じっと見つめて不思議に思う」を「じっと見つめて考える」というように強調するよりは、むしろ「じっと見つめて感じる」というように強調するものである。それは、創造的観察 (Medawar, P. B., 1969) が相互主客二役性的現在事態の中で生成すれば、叡知的 (intelligible) 論理的分析的に「考える」という大脳左半球のプロセスよりも、感性的直視的総合的に「感じる」という大脳右半球のプロセスが働くであろう。むしろ、「考える」というよりは「じっと見つめて感じながら考える」ということは、つまり大脳両半球の相互交渉的統合作用は、記録を再現再構成していくプロセスの中で働くものである\*\*。

そして、この「じっと見つめて感じる」ためには、観察者は、ナイーブにひたすら幼児の行動を見つめることが要請されてくる。即ち、我々の観察法とは、幼児の生活場に観察者が自ら内在し、幼児の行動をナイーブな態度でもって「じっと見つめて感じる」という方法である。

なお、我々がここでいうナイーブとは、ゲシュタルト心理学でいう自発的 (spontan), 自然的 (natürlich) 知覚過程 (Wertheimer, M., 1923) を生じさせることであり、更に、外林大作 (1954) が我が国に実践的に紹介した Moreno, J. L. の即興 (Stegreif =) 即ち自発性 (spontaneity) に等しく、我々の言葉に移せば「その瞬間に間違いなく観察機会に出会い、そしてその瞬間には既に、間違いなく観察行為に移りつつあること」である。

ところで、我々はナイーブな態度には第三の要因が存在することを偶然に臨床的に理解した。1976年6月以来

\* 田口恒夫 (1976) は、「じっと見て考える」と訳出している。

\*\* Sperry, R. W. (1974) 及び Broadbent, D. E. (1974) を示唆とする。

ある幼児 (早, G. T. 1972. 10. 25.) に対しいわゆる受容的遊戯療法を行っているが、ある時 (1977. 6. 16.) 自己をまじまじと見詰め籠む目差しを感じ、その瞬間、目を逸らしたい感じ、どうしていいか分からない感じ、立竦んでしまう感じの金縛りの状態になっていた。しかし、ある時 (1977. 8. 4.) からは、じっと見詰め籠まれても微笑み返ししながら見詰め合い、不安を感じないで自然に振る舞っている状態に気付いた。このことは、単にじっと見詰められることに慣れたからではなく、慣れの水準とは異質の関係構造の場が生成したことを意味しているのである。即ち、観察とは、見る働きと見られる働きとが随時随所で瞬間的に滑らかに交替し得る可能性を孕んだ可逆的な関係\* であるということ、観察者自らが、知的に理解していた水準から真に理解する水準へ中心転換\*\* したのであり、梅津の相互主客二役性という関係構造が存在することを認識したのである。

この三者を統合すれば、ナイーブな態度とは、経験から解き放たれた構えの自然的状態\*\*\* とその瞬間瞬間に最適の構えが瞬発するような自発的状态と相互主客二役性的状態とが、同時相即的に、恒常的に用意された力学的状態のことをいうのである。

次に、我々の記録法は、Medinnus (op. cit.) が「……前もって定めたカテゴリ、チェックリスト、あるいは任意的時間間隔を用いずに、観察可能な展開中の行動のすべてを記録する……」(p. 8) そして「……長時間にわたる running account を得る。」(p. 81) とその構造化されていない特徴を述べ、Achenbach, T. M. (1978) が開いた観察法 (open observational method) と呼ぶものに近い。更に、Yarrow, L. J., Rubenstein, J. L., & Pederson, F. A. (1975) が「二つの主要な接近法が、母子相互作用を記録することに対して用いられてきた。最も一般的なものは、物語記録法 (narrative records) あるいは running account records であり……」(p. 16) と述べ、連続的記録法 (continuous recording, Clarke-Stewart, K. A., 1973; Gewirtz, J. L. & Gewirtz, H. B., 1965; Moss, H. A., 1967; Tulkin, S. R. & Kagan, J., 1972) と言い換えているものに近い。

ところで、これらに遡って、Hartley, R. E., Frank, L. K. & Goldenson, R. M. (1952) は、Stone, L. J. (1941) が用いた running records という記録法を再発見し、「観

\* Piaget, J. (1968) のいう変換性 (les transformations, pp. 10-13) に近いものとする。

\*\* 中心転換 (recentering) の構想は、Wertheimer (1959) に準拠した。

\*\*\* 即ち、「ある特定の経験に固執しない状態」を意味する。

察した場面を再現することができるほど非常に詳しく、徹底的に、そしていきいきとした記録を取ることである。(p. 341)と定義し、Stone自身の言葉を引用して「この型の記録は、『機械的な速さや技術だけでなく、観察者側の明敏と敏感を必要とする……』。(p. 344)と述べている。

我々の立場は、この古典的なStoneの立場まで遡って既述の諸研究を再編成しようとするものである。即ち、我々の技法は、“running\*”という語が示しているように、現在のそして現行の事象を切れ目なく流れるように連続して滑らかにすると走り書きに書き取っていく技法である。それに対して、従来の行動描写法という用語を当てるのは適切と思われない。それは「再現できるほどいきいきとした」記録でなければならないという点が十分に表されていないからである。そこで「活写」という語を採用し、「行動活写法」(八重島建二, 1974)という用語を造り当てたのである。

従って、我々の観察法とは、行動活写法を使用する自然的直接的観察法のことであり、簡潔に表現すれば、従来の観察法と記録法とを不可分のものとして内包する意味合いにおいて「行動活写観察法」(簡略化して行動活写法)となるだろう。

なお、行動活写法で得られた記録は、素材そのものにはあるが、しかしそれ以外に資料を求めることは行わない。つまり、二次的資料源(reports from secondary sources, Achenbach, op. cit.)によるものは資料としないことを意味する。それは、生活場の観察においては観察者がその場に内在しありのままに見たことがすべてであり、他に資料を求めることにより、客観性を高めるといふ名目の下にその実は作為的歪曲的分析に墮してしまいやすい弊に陥らないよう、条件発生的事態に即応するところから出発しようとするものである。

しかしこのことは、決して時間的展望を欠く完結的な閉鎖性を意味するものではなく、むしろ、城戸幡太郎(1968)のいう「静的なるものから動的なものへ、完結的な閉鎖性から完成的な開放性へ発展」(p. 557)することを歴史的因果律の次元においてではなくて、実に体系的因果律の次元において推進する工夫を試みようとするものである。

## 方 法

### (A) 生活場の構造化の方法

生活場の構造化は、行動活写法で得られた記録を再構

\* “running”の意味は、Murray, J. A. H. et al (1933)のThe Oxford English Dictionary. Vol. VIII (pp. 915-916)に拠った。

成することから始まる。

依田新(1963)は、質問紙を用いる場合には、「現実の客観的状态に関する資料」(p. 169)として見る場合と「あくまで表現的資料」(ibid.)として見る場合の2種の意味があることを挙げている。そして、表現的資料として見ていく場合には、「表現の意味を適確に理解しうる心理学的な眼が必要」(ibid.)であることを述べている。当然、我々も生活場の構造化を行う際に、行動活写法による行動観察記録を表現的資料とみなし、適確に理解し得る心理学的な眼でもって読み取っていかうとするものである。

以上のような視点に立って生活場の構造化の表現を工夫するに際し、次の2つの系(system)を考えた。1つは「時間的展望」(time perspective)であり、1つは「碇泊領域」(anchoring region)\*であり、この両系の有機的関連から生活場の構造化を体系的に表現しようとするものである。(TABLE 4)

#### 1. 時間的展望

左右に時間的展望を取る。それは、左右相称の構造を持たせるためである。ところで、個人の行動はその現在の事態に拠るが、我々が現在事態というときに、それは時間的展望の中で心理的未来及び心理の過去を内包する心理的現在を意味する。即ち、単なる物理的時間でもなければ歴史的時間でもなく、実に心理的時間そのものを意味するのである。従って個人の行動を生む現在事態の時間的展望は、その時々において伸縮自在の一定の時間範囲を持ち、ある時にはより近い心理的過去を内包し、又ある時にはより近い心理的未来を内包し、又ある時にはより遠い心理的過去からより遠い心理的未来を含むであろう。

ところで、現在のところ我々は、時間的展望を直接表現する鋭い技術を持たない。それは、時間的展望が解釈の中で生きていくものであるからである。しかし、一応の工夫として、領域と領域との位置関係でもって位相心理学的に時間的展望を表現する工夫を試みている。具体的に言えば、TABLE 5に見るように、T\*\*の前設定保育領域とおやつ領域との境界線と、C<sub>1</sub>\*\*\*及びC<sub>3</sub>\*\*\*\*の前設定保育領域とおやつ領域との境界線とは異なるがごとくである。即ち、Tはまだ前設定保育領域に心理的位置を占めているが、C<sub>1</sub>は点線で境界を示すように前設定保

\* 碇泊領域の構想は、Sherif, M. et al (1947)をLewinに組み込む試みである。

\*\* 保育者(kindergarten teacher)をTと記号化する。

\*\*\* 幼児(child)をCと記号化する。C<sub>1</sub>は、保育しやすくて望ましい子の記号である。

\*\*\*\* C<sub>3</sub>は、保育しにくくて望ましくない子の記号である。

TABLE 1 Cの行動及びTの行動に関する作業概念

ステップ	Tの行動	Cの行動
第一ステップ	命令的(imperative)	服従的か否か (obeying or not)
	指向的(indicative)	遂行的か否か (executing or not)
	示範的(model)	準行的か否か (modelling or not)
	支配的(dominant)	従属的か否か (submissive or not)
	誘導的(inductive)	中心転換的か否か (recentering or not)
水感準情	暗示的(suggestive)	積極的(positive) 消極的(negative) 分離的(separate) 孤立的(isolated)
	水認知準情	認知的(cognizant) 不認知的(incognizant) 認知的(cognizant) 不認知的(incognizant)
第二ステップ	受容的(accepting) 拒否的(rejecting)	受容的(accepting) 拒否的(rejecting)
	指示的(directive)	依存の(dependent)
	非指示的(nondirective)	自立の(independent)
	擬指示的(pseudo-directive)	擬依存の(pseudo-dependent)
第三ステップ	擬非指示的(pseudo-nondirective)	擬自立の(pseudo-independent)
	専制的(autocratic)	他律的(heteronomous)
	民主的(democratic)	自律的(autonomous)
	自由放任的(laissez-faire)	擬自律的(pseudo-autonomous)

育領域とおやつ領域との間の心理的移動を反復しており、又C<sub>3</sub>は実線で境界を示すように既に次のおやつ領域に完全にTより先に心理的移動を終えてしまっている。なお、この領域間の境界線は物理的歴史的時間の中で示している。又、左右の時間的展望のところには、[ ]で物理的歴史的時間を挿入しておくこととする。

II. 碇泊領域

生活場の碇泊領域の核はT-C関係領域であるが、直線的にこれに接近することには問題があろう。なぜなら、T-C関係を観察することは可能であり、実際に観察しているのであるが、T-C関係そのものを記録する技術を我々は現在のところ持たないからである。そこで、我々はTの行動及びCの行動を記録することにする。その場合、観察記録者の人数は、Tの行動を観察記録する者1名、Cの行動を観察記録する者1名、及び生活場全体を観察する解読者の計3名を標準とする\*。

もちろん我々は、一人でTの行動もCの行動も観察記録しなければならぬ事態が現実にあることを認めるものであり、又それが可能であると考えたものである。複数で観察するのは明晰(clearness)を高めようとするものであり、決して確率を高めようとするものではない。Lewin(1935)は、「物理学における落体の法則は、例えば木の葉や石やその他の物体の実際の落下運動の平均を取ることでは発見できなくて、いわゆる純粹事例から研究

\* 今回は、後述 (pp. 14-15参照) するように、観察対象の各々に対して、Aグループは2名で観察を行い、Bグループは1名で観察を行っている。

TABLE 2 T-C関係に関する作業概念

ステップ	T-C関係
第一ステップ	連結的(connected) 非連結的(unconnected)
	可変性がある(changeable) 可変性がない(unchangeable)
	流体の(fluid) 固体の(solid)
	平衡していない(unequilibrated) 平衡している(equilibrated)
	開放的(open) 閉鎖的(closed)
第二ステップ	自由な(free) 不自由な(unfree)
	動力学的(dynamic) 静力学的(static)
	創造性に富んでいる(creative) 創造性に乏しい(less creative)
	自発性に富んでいる(spontaneous) 自発性に乏しい(less spontaneous)

が行われて初めて発見できるのである。心理学においても同様に、環境の子供の行動に対する力とその作用の法則とは、単一であるけれどもその具体的個性によく特徴づけられているところの一定の全体的事態から始めることで発見することができるのである。」(p. 69)と論じている。

次に、解読に際しては、Tの記録及びCの記録を基に、ある時には相対的に先にT領域に碇泊し後にC領域に碇泊し、又ある時には相対的に先にC領域に碇泊し後にT領域に碇泊し、このような操作の末に核であるT-C関係領域に碇泊し、このようにして碇泊領域の構造を明らかにしようとするものである。

(B) 作業概念(working concepts)と説明基準

最初から、最終的最上位の構成的な\*概念による解読は現実的ではないし、又不可能であろう。そこで、思考過程に添って、下位の概念から上位の概念へとステップを踏みながらより高次な明晰化を試みようとするものである。このより高次な明晰化を工夫する操作に対応して、より包摂的なより上位の作業概念即ちより構成的な概念を操作する過程が第一ステップから第二ステップないし第三ステップへの操作過程である。(TABLE 4)

I. Cの行動及びTの行動について

Tの行動及びCの行動は、その明晰化操作の第一ステップにおいては、行為水準、認知水準、感情水準の3水準でもって捕らえられ、その第二ステップ以降においては収斂し、第三ステップへと明晰化していく。その具体的内容は、TABLE 1に示す通りである。

II. T-C関係について

T-C関係を説明する場合に、時間的展望の中に在るはずのある特定の現在時相を仮に封じ込めてしまって微視的に見れば、複数の作業概念を使用できないことはない。しかし、T-C関係という関係態は、そのTの持つ比重とCの持つ比重との量的関係は不確定であり、ましてそのTの持つ意味とCの持つ意味との質的關係は超平均的でさえある。従って、TとCとによる相互交渉の関

\* 構成的な(constructive)という用語は、Lewin(1936, op. cit., pp. 3-17, p. 213)に拠った。

TABLE 3 作業概念の定義

概念	定義	概念	定義
命令的	Tが、自己の意図をCに強制的ないし半強制的に実行させたり、又TがCの行為を強制的ないし半強制的に禁止したりして、CがTの期待通りに行為しなければ罰が予想されるような場合をいう。	服従的	Cが、Tの命令的な働き掛けに対して、その意図通りに行為するような場合をいう。 Cが上記の行為をしないような場合をいう。
指向的	Tが、自己の意図を直接的に話し言葉、身振り、道具によって、Cに示し、CがTの意図通りに行為することを期待するような場合をいう。	遂行的	Cが、Tの指向的な働き掛けに対して、その意図通りに行為するような場合をいう。 Cが上記の行為をしないような場合をいう。
示範的	Tが、ある特定の物、作品、Cの行為又は自己の行為を手本としてCに示し、Cがその手本通りに行為することを期待するような場合をいう。	単行的でない	Cが、Tの示す手本通りに行為するような場合をいう。 Cが上記の行為をしないような場合をいう。
支配的	Tが、Cを自己よりも明らかに低い地位に置き、その行為に対して強断的に批評や賞賛を与えたりして、自己の意図通りにCを操るような場合をいう。	従属的	Cが、Tの支配的な働き掛けに対して、その意図通りに行為するような場合をいう。 Cが上記の行為をしないような場合をいう。
誘導的	Cが心理的移動を行うべき領域に通じる領域又は通路に、Tが存在しているような場合をいう。	中心転換的	Tの誘導的、あるいは暗示的な働き掛けによって場の構造が一変し、Cが目標領域により近い領域に至るような場合をいう。
暗示的	Cが時に課題解決事態の中に在るとき、TがCに解決のヒントを与えるような場合をいう。	中心転換的でない	Cに上記の行為変化が見られないような場合をいう。
積極的	Cが、Tの注意関心を引こうとしたり、その傍に行ったり、話し掛けたり、手伝ったり、あるいは助力を求めたりなど、Cが自ら進んでTに働き掛けるような場合をいう。	消極的	Cが、自ら進んでTに働き掛けることを放棄し、「包囲形成(encystation)」を行うような場合をいう。
分離的	場の周辺に在って、その場とは異質な構造の場を自発的に形成しているような場合をいう。	孤立的	場の中に在って、他の多数メンバー、あるいは重要なメンバーとの相互交換の低いユニークな下位領域を自発的に形成しているような場合をいう。
認知的	T(C)が、C(T)の存在又は行為を知識しているような場合をいう。	不認知的	T(C)が、C(T)の存在又は行為を知識していないような場合をいう。
受容的	T(C)の行為、あるいはT(C)からC(T)への働き掛けを、C(T)が感情的に受け入れているような場合をいう。	拒否的	T(C)の行為、あるいはT(C)からC(T)への働き掛けを、C(T)が感情的に受け入れないような場合をいう。
指示的	保存の場が保存者中心(teacher-centered)であり、Tのある一定の意図の方向にC集団を方向付け、メンバーを同じ活動に参加させるような場合をいう。	依存的	Cは、Tの意図のままに行い、又、C自身が思考、選択、判断をしていないような場合をいう。
非指示的	保存の場が幼児中心(child-centered)であり、TはC集団に思惑、選択、判断を委ね、Cの行為を感情的に受容しているような場合をいう。	自立的	Cは、自己の意図のままに行い、又、C自身が非断的に思考、選択、判断をしているような場合をいう。
擬指示的	決して非指示的ではないが、かといって純粋に指示的でもないような場合をいう。	擬依存的	決して自立的ではないが、かといって純粋に依存的でもないような場合をいう。
擬非指示的	決して指示的ではないが、かといって純粋に非指示的でもないような場合をいう。	擬自立的	決して依存的ではないが、かといって純粋に自立的でもないような場合をいう。
専制的	指示的な領域や擬指示的な領域が連続的に連結していくか、又は、間歇的に連結していくかというような構造に焦点が浮き彫りされているような場合をいう。又、単一の指示的な領域に劇的な焦点が浮き彫りされているような場合をいう。	他律的	依存的な領域や擬依存的な領域が連続的に連結していくか、又は、間歇的に連結していくかというような構造に焦点が浮き彫りされているような場合をいう。又、単一の依存的な領域に劇的な焦点が浮き彫りされているような場合をいう。
民主的	非指示的な領域が連続的に連結していくか、又は、間歇的に連結していくかというような構造に焦点が浮き彫りされているような場合をいう。又、単一の非指示的な領域に劇的な焦点が浮き彫りされているような場合をいう。	自律的	自立的な領域が連続的に連結していくか、又は、間歇的に連結していくかというような構造に焦点が浮き彫りされているような場合をいう。又、単一の自立的な領域に劇的な焦点が浮き彫りされているような場合をいう。
自由放任的	擬非指示的な領域が連続的に連結していくか、又は、間歇的に連結していくかというような構造に焦点が浮き彫りされているような場合をいう。又、単一の擬非指示的な領域に劇的な焦点が浮き彫りされているような場合をいう。	擬自律的	擬自立的な領域が連続的に連結していくか、又は、間歇的に連結していくかというような構造に焦点が浮き彫りされているような場合をいう。又、単一の擬自立的な領域に劇的な焦点が浮き彫りされているような場合をいう。
地結的	TとCとが相互に相手を認知しあっていたり、あるいは感情的に相互交流しあっていたりして、相互交渉を持っているような状態をいう。	非連続的	TとCとが相互に相手を認知しあっていなかったり、あるいは感情的に相互交流していなかったりして、相互交渉を持っていないような状態をいう。
可変性がある	TとCとの関係が変化しやすい状態にあったり、あるいは関係が変化の方向を指向しているような状態をいう。	可変性がない	TとCとの関係が変化しにくい状態にあったり、あるいは関係が変化の方向を指向していないような状態をいう。
流体的	ある時はTの方がCに作用したり、ある時はCの方がTに作用したりして、力の作用する方向が可逆的な関係にあるような状態をいう。	固体的	常にT(C)の力がC(T)に作用することによって、力の作用する方向が一方で変化せず非可逆的な関係にあるような状態をいう。
平衡していない	TとCとの関係が、力関係において釣り合いがとれてなく、安定していないような状態をいう。	平衡している	TとCとの関係が、力関係において釣り合いがとれていて、安定しているような状態をいう。
開放的	TとCのいる場が障壁に取り囲まれていないか、あるいは又、障壁があっても弱く、場からの心理的移動が容易であるような状態をいう。	閉鎖的	TとCのいる場が障壁に取り囲まれていて、その障壁が強く場からの心理的移動が困難であるような状態をいう。
自由な	自由運動の空間が、T、Cとどちらか一方、あるいは両者にとって広いような状態をいう。	不自由な	自由運動の空間が、T、Cとどちらか一方、あるいは両者にとって狭いような状態をいう。
動力学的	T(C)の力が、C(T)に作用することによって、両者の力関係の平衡が動揺し、C(T)が運動性、活動性の高い状態になり、両者の関係が可変性の高いような状態をいう。	静力学的	T(C)の力が、C(T)に作用することによって、両者の力関係が平衡し、C(T)が運動性、活動性の低い状態になり、両者の関係が可変性の低いような状態をいう。
創造性に富んでいる	生産的思考の社会的風土を持つ場が生成しているような状態をいう。	創造性に乏しい	生産的思考の社会的風土を持つ場が生成していないような状態をいう。
自発性に富んでいる	TとCとの関係が、即時座の場に適切に相互自発的に生成しているような状態をいう。	自発性に乏しい	TとCとの関係が、即時座の場に適切に相互自発的に生成していないような状態をいう。

\* Lewin (1935, op. cit.) は encysting (p. 94, p. 144) として使用しており、相良守次・小川隆 (1957) は「殻をかぶること」(p. 98) 及び「殻かぶり」(p. 151) と訳出している。

\*\* 第二ステップにおけるTの行動の作業概念の定義は、Lewin, K. 1939 Experiments in social space. In Resolving social conflicts: selected papers on group dynamics. pp. 71-83 に拠った。

係のプロセスの場として、即時即座に\*、より重要な意味を劇的\*\*に持ち、又より代表するにふさわしい象徴的機能を劇的に持ち、更に一瞬にして求心的に溶明する図的形態から一瞬にして遠心的に溶暗する地的形態への機能転換が繰り返されてついに最後の真の中心転換によって劇的に安定化するときの劇的ゲシュタルト (dramatic Gestalt) をもってT-C関係を表現する解説法を採る

\* Moreno (1964) 独特の用語法に基づく hic et nunc に近いと考える。  
\*\* 劇的 (dramatic) という用語は、Homburger, E. (1938) の Dramatic productions test を参考にした。

ことにしたのである。この解説法が劇的焦点化 (dramatic focusing) の技法\*であり、これを駆使して第二ステップの明晰に至る。その具体的内容は、TABLE 2 に示される。

(C) 作業概念の定義

前述の作業概念の定義は、TABLE 3 にまとめて掲げる通りである。

(D) 観察対象

観察対象は、次表のように2群に対応される。

\* 依田 (op. cit.) の青年理解の技法は、我々のいう劇的焦点化の技法に近いものと考えられる。



\* TABLE 4 に示す 1 から 10 までの肩の数字は、次表のように時間的展望の各位置に対応する。

時間的展望	(9:23)	(9:34)	(9:45)	(9:53)	(10:00)
TABLE 4 に示す数字の位置	1	2 3 4 5 6 7	8	9	10

TABLE 4 の解読の模型は、1-2(部分)に相当し、T及びCの行動領域の第一ステップは、その 1-2 の部分から解読される。しかし、行動領域の第二ステップの解読は1-8の部分からなされ、更に第三ステップの解読は1-10の部分からなされる。

グループ	保育しやすく て望ましい 子	普通の子	保育しにく くて望まし くない子	保育者
Aグループ	C <sub>1</sub> (♀)	C <sub>2</sub> (♀)	C <sub>3</sub> (♂)	T(♀)
Bグループ	C <sub>4</sub> (♂)	C <sub>5</sub> (♂)	C <sub>6</sub> (♂)	

観察対象児は、三歳児クラス18名(♂9名, ♀9名)の中から、Tが観察開始前に選んでおいた幼児である。

(E) 観察者

観察者(計12名)は、二年後期に毎週4時間の観察訓練を受けた幼児教育専攻の三年生であり、観察対象児に関

する情報は全く与えられていない。

同一対象を同時に何名で観察するかという問題は、幼児の生活場を構造化するという主題のもとでは決定的な意味を持たないと考えられるが、訓練の見地から、Aグループの観察者は、観察対象4名に対し各々2名、計8名であり、各2名はそれぞれ独立に観察記録し、一方Bグループの観察者は、観察対象4名に対し各々1名、計4名である。

(F) 観察日時

TABLE 5 The Schema of the Structuralization of Life Field in Children (Group A)

time per-spective	situation	child easy to deal with (C <sub>1</sub> )			average child (C <sub>2</sub> )			child hard to deal with (C <sub>3</sub> )			保育場面	time per-spective	
		T's behaviour	T-C <sub>1</sub> relationship	C <sub>1</sub> 's behaviour	T's behaviour	T-C <sub>2</sub> relationship	C <sub>2</sub> 's behaviour	T's behaviour	T-C <sub>3</sub> relationship	C <sub>3</sub> 's behaviour			
[9:23]	free play	laissez-faire	static	autonomous	laissez-faire	pseudo-autonomous	laissez-faire	static	autonomous	dynamic	autonomous	自由遊び	[9:23]
dynamic			static					spontaneous					
static			dynamic					static					
spontaneous			dynamic					dynamic					
[10:00]	programed class-activity	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	autocratic	creative	autonomous	前設定保育	[10:00]
dynamic			static							dynamic			
[10:33]	programed class-activity	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	autocratic	static	pseudo-autonomous	おやつ	[10:33]
dynamic			creative							static			
[10:48]	programed class-activity	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	autocratic	static	hetero-nomous	後設定保育	[10:48]
dynamic			dynamic										
[11:04]	programed class-activity	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	autocratic	spontaneous	autonomous	降園	[11:04]
dynamic			dynamic										
[11:25]	leaving for home	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	static	hetero-nomous	autocratic	autocratic	spontaneous	autonomous	降園	[11:25]

TABLE 6 The Meaning induced from the Two Schemata

the structuralization of life field					
situation	child easy to deal with (C <sub>1</sub> , C <sub>4</sub> )		average child (C <sub>2</sub> , C <sub>5</sub> )	child hard to deal with (C <sub>3</sub> , C <sub>6</sub> )	
free play	complex	structural constancy-catastrophe	simple	structural simplicity-constancy	complex
programed class-activity	simple	structural constancy-catastrophe	simple	structural simplicity-constancy	complex
					structural complexity-constancy

観察日時は、1974年6月25日(火曜)午前9時20分から11時40分までである。この日時は、幼稚園では普通の保育日の登園から降園までの普通の保育時間帯であり、一方大学では幼児教育研究法(毎週4時間、半年間、2単位)という授業時間帯に当たる。

(G) 観察場所

観察場所は、ある教育学部付属幼稚園の三歳児クラスの保育室及び屋外砂場である。

(H) 素材

素材は、観察者による記録そのものであるが、Aグループの素材は、観察者が同一対象に関する2通の記録から相補的に合成した。

結果と考察

Aグループの場合は合成記録の素材を基に、Bグループの場合は単独記録の素材を基に、いずれも同じ所定の手続と技法に従って構造化を試み (TABLE 4 [部分]), それぞれ TABLE 5, TABLE 5' に示す結果が得られた\*。

これを見るに、個々別々に、保育者領域だけに淀泊してみても、又幼児領域だけに淀泊してみても、その様相は平板的であって明晰性を欠き、およそ力学的構造とは

\* TABLE 5 に関しては日本教育心理学会第19回総会(1977)において報告され、TABLE 5' に関しては日本保育学会第31回大会(1978)において報告されている。更に両表はまとめられて、日本教育心理学会第20回総会発表論文集(1978, p. 97)に収録されている。故に、本稿においては紙数の都合上代表してTABLE 5 のみを掲げ、資料請求に応じる用意を整えて置くこととする。

TABLE 7 保育者の認知

	保育しやすく望ましい子 (C <sub>1</sub> , C <sub>4</sub> )	普通の子 (C <sub>2</sub> , C <sub>5</sub> )	保育しにくく望まない子 (C <sub>3</sub> , C <sub>6</sub> )
パーソナリティ・イメージ	手の掛からない、扱いやすい、望ましい子	手の掛からない、扱いやすい、「その他大勢」の子	手の掛かる、扱いにくい、望まない子
社会的望ましさ	正の方向に目立つ	正負の方向に目立たない	負の方向に目立つ

言い難く、到底幼児の生活場の力学的理解にはつながらない。それに対して、所定の手続と技法に則し、最終的に保育者-幼児関係領域に淀泊するステップを踏めば、TABLE 5 (5') そしてそれから構造的に導き出されたTABLE 6に見られるように、保育しやすい子C<sub>1</sub>及びC<sub>4</sub>の生活場の構造は、自由遊び場面では複雑な構造であるが一斉保育場面では一変して単純な構造となり、保育事態の顕型的変容を媒介として構造転換が中心転換的に顕在化するという元型的特質即ち構造の中心転換性 (structure-recenteringness) を示している。次に、保育しにくい子C<sub>3</sub>及びC<sub>6</sub>の生活場の構造は、自由遊び場面でも一斉保育場面でも一様に複雑であり、保育事態の顕型的変容を媒介として構造の複雑性が一貫的に顕在化するという元型的特質即ち構造的複雑性の恒常性 (structural complexity-constancy) を示している。これに対して、普通の子C<sub>2</sub>及びC<sub>5</sub>の生活場の構造は、自由遊び場面でも一斉保育場面でも一様に単純であり、保育事態の顕型的変容を媒介として構造の単純性が一貫的に顕在化するという元型的特質即ち構造的単純性の恒常性 (structural simplicity-constancy) を示している。ところで、後二者と前者との間には構成概念的水準に差違がみられる。この差違をうずめるために、後二者に対応させて前者を構造的恒常性のカタストロフィ (structural constancy-catastrophe) と解釈し、併せて命名する。

このように、幼児の生活場の構造の図式的意味という次元においては、素材的世界は顕型的水準から元型的水準へ中心転換して、構成的概念体系に構造化する。即ち、Wertheimer のプレグナンツの法則 (law of Prägnanz, Koffka, K., 1935) が、それぞれの幼児の生活場の内部に内的必然性をもって作用していることが顕在化し、よき劇的ゲシュタルトとしてそれぞれの幼児のユニークな主体的世界が浮き彫りされてくる。ここに、真に幼児の生活場の構造法則的理解に至り得たということができよう。

ところで、保育者が認知する幼児のパーソナリティ・イメージは、TABLE 7 に示すように、C<sub>1</sub> 及び C<sub>4</sub> の場合は、手の掛からない、扱いやすい、望ましい子であり、C<sub>3</sub> 及び C<sub>6</sub> の場合は、手の掛かる、扱いにくい、望ましくない子であり、C<sub>2</sub> 及び C<sub>5</sub> の場合は、手の掛からない、扱いやすい、「みんな」あるいは「ほかの人」と呼び掛け

られる「その他大勢」の子であり, Edwards, A. L. (1953)の社会的望ましきの尺度に照応すれば, 保育しやすい子は正の方向に目立ち, 保育しにくい子は負の方向に目立ち, 普通の子は正負いずれの方向にも目立たないということが理解できる。我々は, この保育者によっていつとはなく形成された幼児のパーソナリティ・イメージの因果的構造の特質が, 上述の図式の意味の次元に求められると考えるものである。

ここに, 本研究により, Lewinの最もLewinらしい体系を背景に, 行動活写観察法を適切に駆使して素材を求め, 劇的焦点化の技法を適切に操作して解説を進めれば, 幼児の生活場はその本質的な構造と意味とを明晰化することが可能となり, 幼児の生活場に関する構造的法則を定立する見通しが得られたということができよう。

#### 附 記

故千輪浩先生, 故高木貞二先生, 相良守次先生に, 孫弟子とともに本論文を捧ぐ。

#### 文 献

- Achenbach, T. M. 1978 Research in developmental psychology: concepts, strategies, methods. THE FREE PRESS A Division of Macmillan Publishing Co. Inc., N. Y.
- Broadbent, D. E. 1974 Division of function and integration of behavior. In Worden, F. G. (Eds.-in-Chief), The neurosciences: third study program. pp. 31-41 The MIT Press, Cambridge, Mass.
- Edwards, A. L. 1953 The relationship between the judged desirability of a trait and the probability that the trait will be endorsed. *J. appl. Psychol.*, Vol. 37, No. 2, 90-93
- Endler, N. S., Boulter, L. R., & Osser, H. 1976 Contemporary issues in developmental psychology. 2nd ed. Holt, Rinehart and Winston, N. Y.
- Hartley, R. E., Frank, L. K., & Goldenson, R. M. 1952 Understanding children's play. Columbia Univ. Press, N. Y.
- Hebb, D. O. 1972 Textbook of psychology. 3rd ed. W. B. Saunders Company, Philadelphia.
- ヘップ, D. O. 白非常・鹿取広人・平野俊二・金城辰夫・今村護郎共訳 1975 行動学入門 生物学としての心理学 第3版 紀伊國屋書店
- 日高徹隆 1976 エソロジーはどういう学問か 思索社
- Homburger, E. 1938 Dramatic productions test. In Murray, H. A. (Ed.), Explorations in personality. pp. 552-582 Oxford Univ. Press, N. Y.
- 城戸幡太郎 1968 心理学問題史 岩波書店
- Koffka, K. 1935 Principles of Gestalt psychology. Routledge & Kegan Paul Ltd., London.
- Lewin, K. 1935 A dynamic theory of personality. McGraw-Hill Book Company, Inc., N. Y.
- レヴィン, K. 相良守次・小川隆訳 1957 パーソナリティの力学説 岩波書店
- Lewin, K. 1936 Principles of topological psychology. McGraw-Hill Book Company, Inc., N. Y.
- Lewin, K. 1939 Experiments in social space. In Lewin, K. 1948 Resolving social conflicts. pp. 71-83 Harper & Row Publishers, Inc., N. Y.
- Medawar, P. B. 1969 Induction and intuition in scientific thought. Methuen's, London. In Tinbergen, E. A. & Tinbergen, N. 1972 Early childhood autism-an ethological approach. Verlag Paul Parey, Berlin.
- Medinnus, G. R. 1976 Child study and observation guide. John Wiley and Sons, Inc., N. Y.
- Montessori, M. 1936 The secret of childhood. Orient Longmans Limited., Bombay.
- Moreno, J. L. 1964 Psychodrama. Vol. 1., 3rd ed. with new introduction. Beacon House Inc., Beacon, N. Y.
- Murray, J. A. H. et al 1933 The Oxford English Dictionary. Vol. VIII. The Clarendon Press, Oxford.
- 中島昭美 1977 人間行動の成りたち—重複障害教育の基本的立場から— 研究紀要第1巻第2号 重複障害教育研究所
- Piaget, J. 1968 Le structuralisme. Presses Universitaires de France, Paris.
- Sherif, M. & Cantril, H. 1947 The psychology of ego-involvements: social attitudes and identifications. John Wiley & Sons, Inc., N. Y.
- 外林大作 1954 心理劇 光風出版
- Sperry, R. W. 1974 Lateral specialization in the surgically separated hemispheres. In Worden, F. G. (Eds.-in-Chief), The neurosciences: third study program. pp. 5-19 The MIT Press, Cambridge, Mass.
- Tinbergen, E. A. & Tinbergen, N. 1972 Early childhood autism-an ethological approach. Verlag Paul Parey, Berlin.
- Tinbergen, N. 1974 Ethology and stress diseases. *Science*, Vol. 185:5 July, 20-27
- ティンバーゲン夫妻 田口恒夫訳編 1976 自閉症—文明社会への動物行動学的アプローチ— 新書館
- 続有恒・宇阪良二編 1974 心理学研究法第10巻観察 東京大学出版会
- 梅津八三 1974 重度・重複障害者のあり方 特殊教育, 4, 2-5
- 梅津八三 1976 心理学的行動図 研究紀要創刊号 重複障害教育研究所
- Wertheimer, M. 1923 Untersuchungen zur Lehre von der Gestalt, II, *Psychol. Forsch.*, 4, 301-350
- Wertheimer, M. 1959 Productive thinking. Rev. ed. Harper & Row, N. Y.
- Wright, H. F. 1960 Observational child study. In Mussen, P. H. (Ed.), Handbook of research methods in child development. pp. 71-139 John Wiley & Sons, Inc., N. Y.
- 八重島建二 1974 幼稚園教員養成に関する研究 I—山

- 下俊郎先生の古稀を記念して— 日本保育学会第27回大会研究発表論文集 2-206  
 八重島建二・清光文 1977 行動活写法による幼児の生活場の構造化の試み 日本教育心理学会第19回総会発表論文集 48-51  
 八重島建二・清光文 1978 保育しやすい子, しにくい子, 普通の子とはどんな子どもか その1 研究法 その2 実証 日本保育学会第31回大会研究論文集 56-59

- 八重島建二・清光文 1978 行動活写観察法による幼児の生活場の構造化 日本教育心理学会第20回総会発表論文集 96-97  
 Yarrow, L. J., Rubenstein, J. L., & Pederson, F. A. 1975 *Infant and environment: early cognitive and motivational development*. Hemisphere Publishing Corporation, Washington, D. C.  
 依田新 1963 青年心理学 培風館  
 (1978年10月30日受稿)

## ABSTRACT

### A STUDY ON THE STRUCTURALIZATION OF LIFE FIELD IN CHILDREN BY MEANS OF THE OBSERVATION METHOD WITH RUNNING RECORDING

by

Kenji Yaeshima & Aya Seiko

The purpose of this study is to establish a psychological method concerning the structuralization of life field in children, using as the main framework the genuine part of Kurt Lewin's theory. First, "Life Space" as Lewin termed it and "Field" are taken up; then, a new concept of "Life Field" is coined, having the meaning of "the lively field shared, concurrently and interdependently, by children and kindergarten teachers."

In order to obtain the necessary materials concerning the life field in children, the observation method with running recording is devised. This method consists of naturalistic direct observation and modified "running record" as proposed by L. J. Stone. Observation here means the method of "watching and wondering," as N. Tinbergen calls it. Here, the observer standing within the life field of children watches the behaviours of children and wonders with a naïve attitude, that is, a natural and spontaneous "bi-polar attitude reciprocally alternating the two roles subjective and objective" as originally expressed by Hachizo Umezu. The method of running recording means the technical art of describing, rapidly and continuously, in a smooth, straightforward way, and that, so vividly that the scene concerned might be reproduced later, scene that has been observed in the behaviours of children as occurring here and now.

These two are considered to be indissolubly united and this idea has given birth to the name of the method mentioned above.

In order to show the structuralization of the life

field, it is necessary to formulate the organic relationship between the system of time perspective and that of anchoring region. As to the anchoring region, the relationship between teacher and children is observable, but still has no proper way of recording it. Then the behaviour of teacher is recorded, as well as the children's. In the interpretations, and sometimes deciphering, of these records on both sides, the work is to examine one record after the other thus anchoring, alternately, in teacher's region and in children's region leading to the anchoring in the region of teacher-children relationship.

In order to make the structuralization of the life field clearer, more constructive concept is operated with the advance of steps from the first to the third.

In the explanation of the teacher-children relationship, the method of dramatic focusing is applied. This means the relation is explained in the "dramatic Gestalt" of dramatic meanings, dramatic symbols and dramatic recenterings, at the present phase in the time perspective.

With the above-mentioned method, the life fields of six children are structuralized.

As a result, the law of Prägnanz having functioned within each child's life field, the unique subjective world of each child was revealed as the good dramatic Gestalt, whose structural meaning has become explicit. (Refer to TABLES 5 & 6) Hence comes a fair prospect of structuralizing the life field of children by means of the observation method with running recording.